



第 89 号

2011 / 7

交通基本法制定への要望

NGO 共同声明

全国路面電車ネットワーク
運営委員長 岡将男

国会議員各位 殿

東日本大震災と原発事故という国家的未曾有の事態の中で、我々が数年来待望してきた国民の移動の権利を書いた「交通基本法」制定について審議入り直前となっています。しかし復興法案や第二次補正予算の審議の行方とからんで、時間的に成立が危ぶまれています。

この法律は地方における公共交通の崩壊に直面して、福祉の観点からも公共交通全体の位置付けを行うもので、法律が制定されれば、戦後のモータリゼーションのもとでの、過度に自動車に依存する社会を、本格的高齢化を迎える中で、ゆるやかに方向転換させていくものでもありました。

しかし大震災と原発事故を経験した我々日本国民は、今までの生き方を根本的に変える必要に迫られています。この事態は経済にも配慮しつつもエネルギー転換と地球温暖化対策を同時に実行していかなければならないという試練でもあります。

ところで大震災で大被害を受けた三陸鉄道の復興などは、地域復活のシンボルともなりえますし、この際復興でも「交通基本法」の精神を大胆に取り上げるべきです。また公共交通を拡充することは究極の省エネでありエネルギー政策の転換に不可欠なものであります。

高速道路の無料化だけが独り歩きする事態は、幸か不幸か大震災以後修正されましたが、これからは電車バスなどの「公共交通」を論じるだけでなく、自動車や道路、自転車を含めた「公共の交通」を論じることが必要です。エネルギー政策同様、電気自動車の開発普及、公共交通の再建、自転車の有効活用、自転車道や環状道路の緊急整備など、ベストミックスを作る必要があります。またその過程ではLRT建設と都市改造など、成長戦略を描くこともできます。そこで我々はこの際、交通基本法制定と様々な対策をセットで導入し、真に人と環境にやさしい交通の実現を要望したいと思います。

以上、今国会において、未来の日本の復活・成長戦略の切り札ともなる交通基本法の制定をよろしくお願いたします。

我々は「人と環境にやさしい社会」の実現に向けて、地方自治体および国の政策に対して積極的に議論に参加し、情報発信や公共交通の利用促進に努めていきます。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索



NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA

詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



第1章 出発

去年の夏、奥さんと二人で北ウェールズ・・・「イギリスの紀伊半島」的へき地・・・に行ってきました。ジツに新婚旅行以来です。なんでそんなマイナーなところに、というと、私はあの便利なパック旅行というモノが嫌いで、現地人より日本人のほうが多そうな流行観光地も嫌いで、ワタシ的にはヴィレール・ボカージュとかヴェルダン要塞跡ですが、奥さんがそんなものに同意するはずがなく、世界遺産の古城が数珠つなぎ状にあり、奥さんは「お城」が大好きなので、ここなら説得可能かもしれない、と。

奥さんははじめ難色を示しました。城の写真を見せると「カワイくない」というのです。困った私は、城郭というものはがんらい軍事施設であり、カワイイ軍事施設をと言われても、と抗弁しましたが、奥さんは「それはモノのアワレを解さないアラエビスの発想だ」と言ってちっとも動じません。ここで幸い<英国有数の庭園>「ポドナント・ガーデン」を発見。イングリッシュ・ガーデン(も)大好きな奥さんは、急転直下OKしました。やったね。

で どうやって行くんだ？ ウェールズ入りの旅行プランなんて(日本には)全然ないことが、すぐにわかりました。自力しかありません。頼りはガイドブック(わずか数ページ分)と、ミシュランのマップと、ネットだけ……ところがネット社会おそるべし。列車時刻表からモノ好き

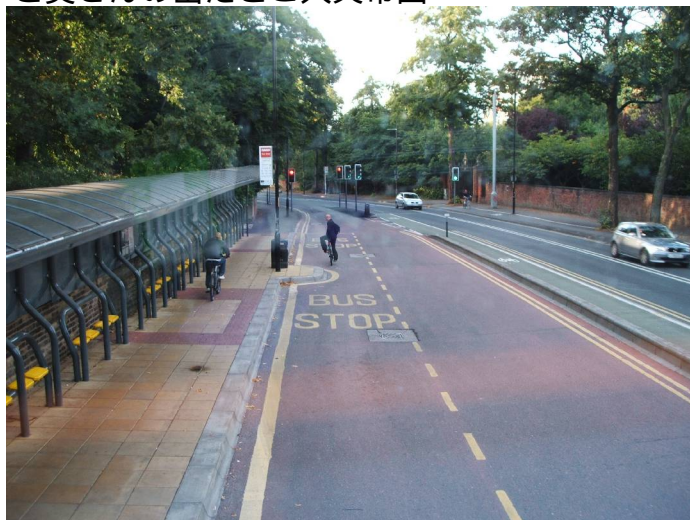
バスはゆく、ウェールズ。

光成クンと奥さんの出たところ大英帝国

(いるのね)の体験ブログまでずらずら出てきます。小さな町の小さなB&B(寝室+朝食の「民宿」みたいな)さえ全部ネット予約できました。

最寄りの国際空港はマンチェスター。(不正解。ロンドンから直行する特急列車があり、片道で半日以上トクでした。)日本からの直行便がなく、アムステルダムで2時間待って乗り換え。この国際ローカル線?には、英国紳士ほぼ皆無、フーリガン風ばっか。ボーイジョージ風のお兄さん、元ボーイジョージ風のおぢさん、ルーニー風のお兄さん、元ルーニー風のおぢさん、～に各お似合いのおねいさん及びおばさん。しかも半袖の人だと、30%くらいの確率で腕のタトゥーがちらちら見えます。入国前からすでに裏大英帝国です。

マンチェスター空港着。下調べによると、空港から町まで鉄道があります。ところが、ロビーに駅の案内板が見えません。表に出てもわかりません。シャトルバスもありません。パニック1。インフォメーションに引き返して尋ねると、「空港ビルの端っこまで行ったら案内板がある」と(ないし、たぶん似たようなことを)言うではありませんか。端っこまで行くと、案内板、ありました。「駅はこの外だ」と書いてあります。出ると確かに「動く歩道」があり、乗っていると駅ビルに着くのですが・・・遠いし!ほとんど人いないし!おまけに駅に切符売り場が見当たりません。パニック2。駅ビルのそばから出ている路線バス



に切り替えました。(翌日わかったんですが、イギリスの鉄道って改札がなく車内で切符買うから、切符売り場っていらぬのね。)しかし、航空と地上公共交通との連携をなんと考えとるんだらうね。マンチェスター減点3。

バスは当然のように2階建て。スーツケース引きずって(コドモか)2階席の最前列へ。車内の掃除がなっとりませんでしたがね。バスはあっちに曲がったりこっちに寄ったり。イギリスの路線バスはこの点が極端です。運行時間は長くなっても、客は全部拾うんだ!結局、市中心部まで1時間。

高台にある空港から下界に下りていくのですが、ほとんどバスレーンがあって、渋滞しません。でもなんか道路標識がヘンです。「Buss & Camera」と書いてあります。バス&カメラ?なんのこっちゃ?よく見ると「will be prosecuted(起訴されるぞ)」云々、ちっちゃい監視カメラらしきものがのっかっています。恐るべし大英帝国、バスレーンを走行する不屈者は問答無用で撮影されて罰金を食らうのです。でも写真のとおり自転車は平気で抜きつ抜かれつ(下り坂なのでいい勝負)。マンチェスター、得点1(そうなのか?)。